

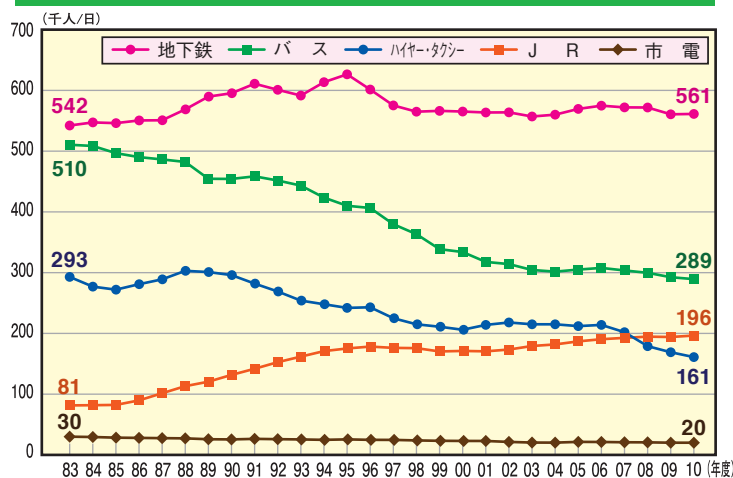
札幌市の交通課題

車を利用できない人にも配慮した『生活の足の確保』が必要です。

バスの総走行距離はほとんど変わらないのに、30年間でバスの乗客はほぼ半減しています。

営業効率が急激に悪化する中、バス事業の経営は厳しい状況にあり、このまま悪化傾向が続くと、バス路線の維持が困難となる可能性があります。

公共交通利用者数の推移 札幌市内 機関別日平均乗車人員



バスの1日あたりの平均乗車人数と走行台km (※1)



資料:札幌市統計資料

今後、交通事業者や行政機関の取り組みだけでは『生活の足』を確保することが困難となる可能性があります。

利用主体である市民の皆さんと、課題や目標などを共有し、一緒に取り組んでいくことが必要です。



山田家の場合 10数年前

山田さん(50歳(当時))はバス・地下鉄と乗り継いでの通勤、娘さんはバス通学と、毎日バスを利用していました。奥さんは運転免許が無いため、バスでよく大通に出かけていたのですが...



みなさんが乗ってくれるので
今後もがんばります!

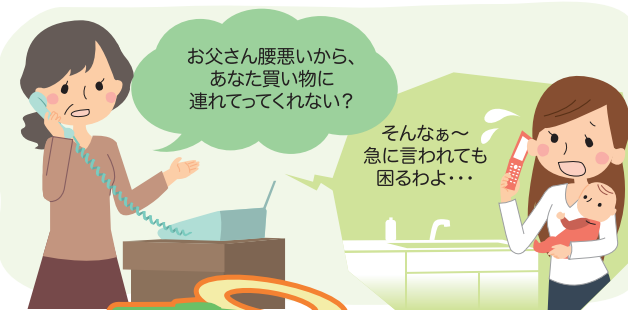
いま...

地域が高齢化するとともに、公共交通利用者が大幅に減少してきました。



以前に比べて、乗客が
ずいぶん減ってきたなあ...

さらには...とうとうバスが廃止になってしまいました。



もう続けられないよ〜

(※1) 交通量(台)と走行距離(km)を乗じたもの。自動車の延べ運行距離のこと。

札幌市の交通課題

生活拠点^(※2)を中心とした『安心・安全な交通環境』が必要です。

札幌市は各区に生活拠点を配した『多中心核構造』による『歩いて暮らせるまちづくり』を目指しています。そのためには、歩道のバリアフリー化、冬期路面管理（除排雪・つるつる路面対策）、駅周辺の駐輪場対策や自転車走行空間の明確化など多くの課題が残されています。

生活関連経路^(※3)の歩道整備状況

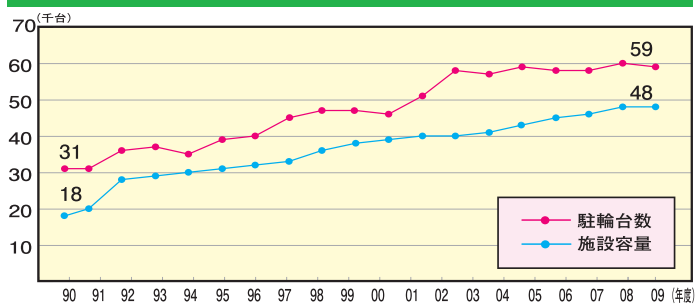
整備済 106km

未整備 120km

重点整備地区^(※4) 53地区

資料：札幌市集計（2010年度末現在）

地下鉄・JR駅周辺の駐輪台数と施設の容量



資料：札幌の都市交通データブック2010



▲ バスレーンの排雪作業



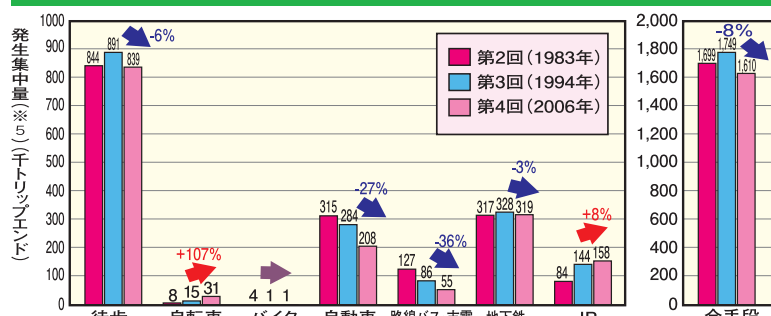
▲ 自転車走行空間の明確化

『都心の魅力と賑わいを支える交通』が必要です。

札幌の都心は、道都・札幌の中心であり、道内外、さらには国外からも多くの人が集い、活動する場です。そのため、市民や来街者にとって都心は、札幌の魅力を象徴するものであり、商業・文化・芸術などの都市の生活の魅力を最もよく享受できる場でなければなりません。

しかし、近年では都心に訪れる人は減少しており、都心の魅力と求心力の低下が懸念されます。

平日1日当たりの都心での発着人数^(のべ人数)



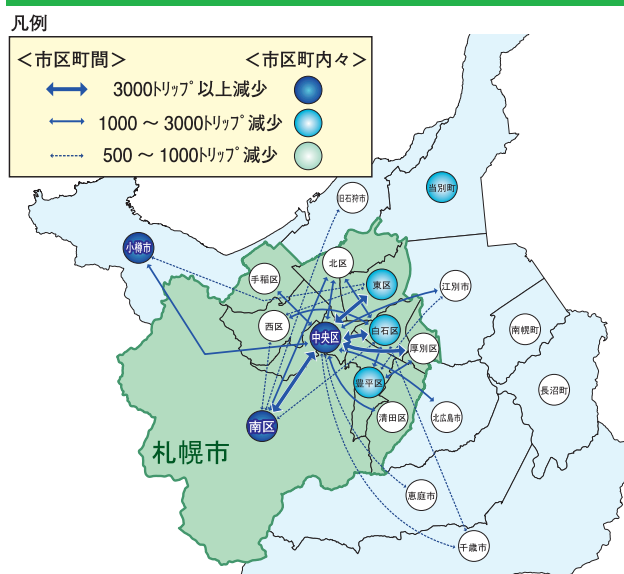
注：「%」表示は、1994年からの増減割合

資料：第2～4回道央都市圏パーソントリップ調査



▲ 都心の「魅力と賑わい」のイメージ ▲

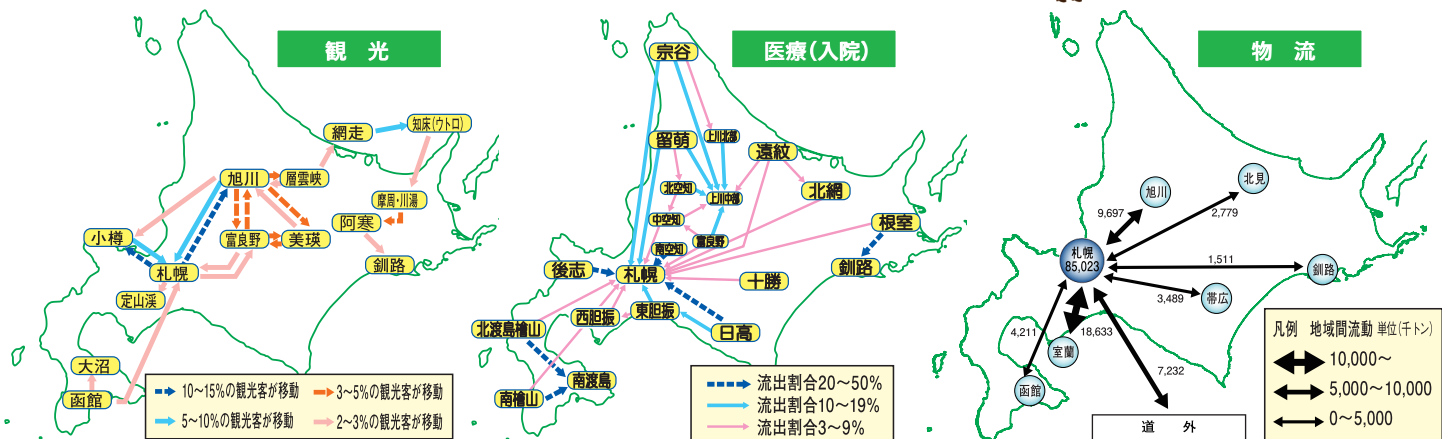
市区町間の動きが減少した方向^(1994年と2006年の比較)



資料：道央都市圏パーソントリップ調査

人・物の集積地に見合った『速くて安定した交通』が必要です。

札幌は、観光・医療・物流などで人・物が行き交う北海道の中心都市です。
しかし、空港・港湾・高速道路などのアクセス性が低くなる冬場は、移動の所要時間が増すなどの課題があり、競争力の低下や経済活動に影響を及ぼす可能性があります。



道内の主要な観光ルート 資料: 来道観光客動態調査(2007年度)

入院の医療受領動向 資料: 国民保険レセプトデータ(2006年度)

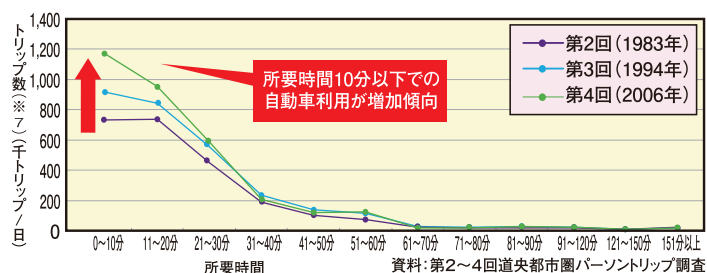
札幌ブロック発着貨物流動量 資料: 貨物地域流動調査(2008年度)

『環境対策』と『自動車利用の見直し』が必要です。

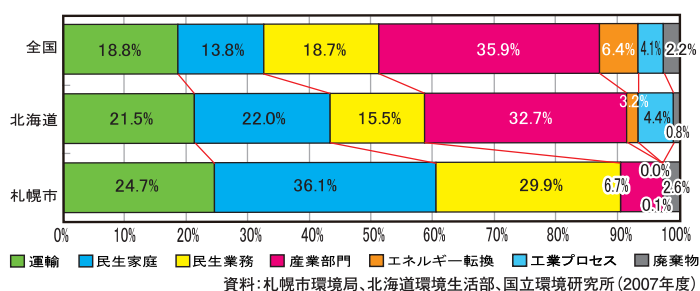
地球温暖化防止に向け、二酸化炭素排出量の削減が求められています。札幌市では、運輸部門(主に自動車)からの二酸化炭素排出割合が多い傾向があります。

また、近場であっても安易に自動車を利用する傾向が強まっています。今後は地球環境に配慮して自動車利用を見直す必要があります。

自動車移動の所要時間分布の推移(道央都市圏 ※6)



部門別の二酸化炭素排出量



地球温暖化問題を意識して、公共交通など地球環境にやさしい交通手段を最大限利用することが必要です。

さっそく今日から、自動車利用のことを見直してみませんか?

(※6) 札幌市を中心とする交通面での繋がりが強い地域として、札幌市、小樽市、江別市、北広島市、恵庭市、千歳市、石狩市、当別町、南幌町、長沼町の7市3町を指す。

(※7) 人がある目的を持って、ある地点からある地点へと移動する単位をトリップという。